

廃プラ・容リ・古紙・事業系

紺野企業

電マニASPで効率向上

一元管理の要望にも対応

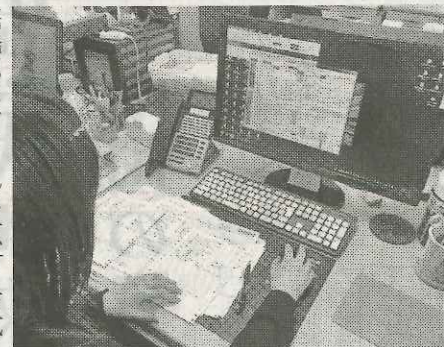
顧客とWin-Winの関係に

紺野企業(神奈川県綾瀬市、紺野大三郎社長、0467・706350)は、エスエムエス(本社・和歌山)のASPを活用した電子マニフェストシステム「産廃イチョー」を導入、顧客である排出事業者と自社の事務負担を大幅に軽減し、「Win-Win」の信頼関係を構築することに成功した。従来からエスエムエス社の「産



紺野大三郎社長(右)と望月勝リサイクル推進部長

1960年の設立で、産業廃棄物収集運搬、中間処理・リサイクルなどを手掛けている。



事務管理を大幅に効率アップ

廃発泡スチロールを原料とする「エコサンド」製造や再生ペレット加工、廃プラスチックによるプラフ燃料加工などに力を入れてきた。多くの排出事業者で紙マニフェストの発行や管理に手間が掛かっているものの、電子マニフェストシステムの導入に至っていない

同社としても、従来の紙マニフェスト利用時に比べて、事務管理費が約30%削減できた。さらに、新システムに参画した排出事業者が廃棄物管理への関心を高め、同社に対して廃棄物の一元管理・エリア管理を依頼するなど予想以上の効果をあげているという。

福岡市 NPO法人など活動サポート  
環境市民ファンドで支援

福岡市は、市民団体やNPO法人等で活動する市民が自発的に行う環境活動を「エコ発する事業」と位置付けて、環境市民ファンド(基金)で支援してきたが、2016年度の申請受付期間が始まった。期間は、4月1日から15日まで。福岡市内で活動する5人以上で組織された市民団

対象は、①ごみ減量・リサイクル②環境学習啓発③環境保全④環境美化―以上4点の市民参加型の事業。補助金額は、対象経費の4分の3以内。上限額は、全市や複数区

のが実情だ。これに対し、同社は、ASPを活用した電子マニフェストシステムを手掛けるエスエムエスと協力しながら、排出事業者への提案を進めた。ED I方式によるもので、電子マニフェストへの登録の代理入力ができるばかりか、排出事業者の義務であるマニフェストの保管・管理、交付等状況報告書の作成などが不要になる。入力情報の管理義務を果たすだけで、廃棄物管理に係るコンプライアンスにも対応できる。